

# ①アレルギー性皮膚炎（猫）

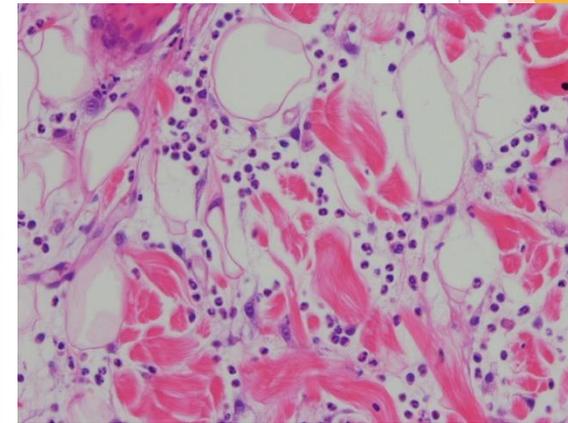
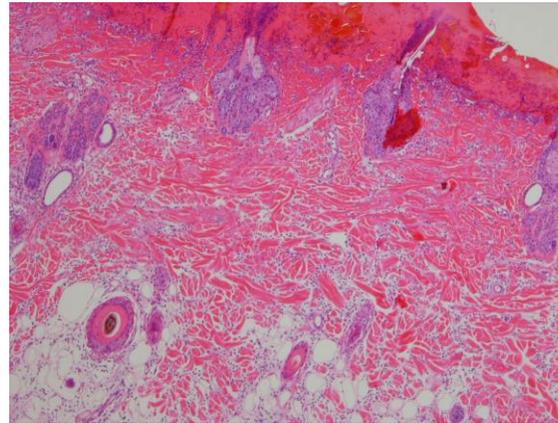
症例：エキゾチックショートヘア、8歳、未避妊雌、4.3kg

診断：アレルギー性皮膚炎

症状：痒みを伴う全身の粟粒性皮膚炎

治療：プレドニゾロン、シクロスポリン、ミコフェノール酸モフェチル

ADSC治療目的：プレドニゾロンの減量



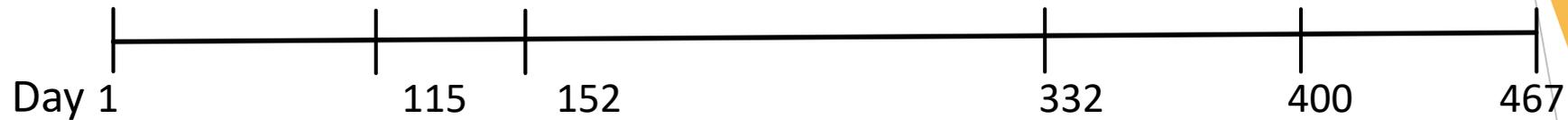
病理検査：好酸球性皮膚炎

真菌、細菌、寄生虫などの感染は認められない



- ・ 頭部、体幹、四肢などほぼ全身に粟粒性皮膚炎
- ・ パンチ生検実施日を第1病日とする

# ①アレルギー性皮膚炎(猫)



プレドニゾロン

1mg/kg SID

シクロスポリン

7mg/kg SID 90日間投与 (飲めないことも多かった)

ミコフェノール酸モフェチル

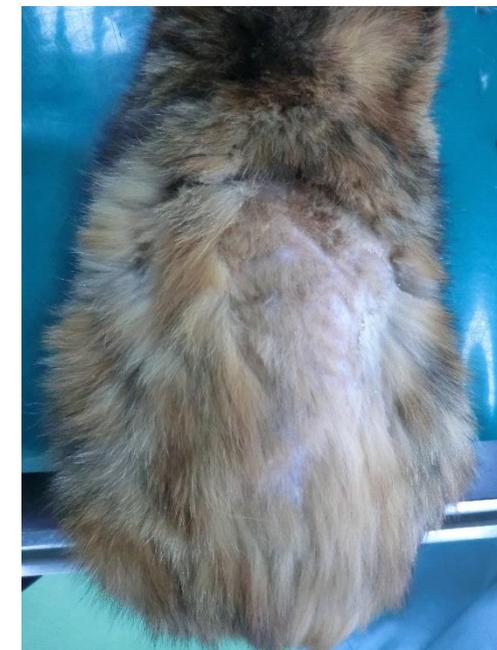
10mg/kg BID 84日間投与



第313病日

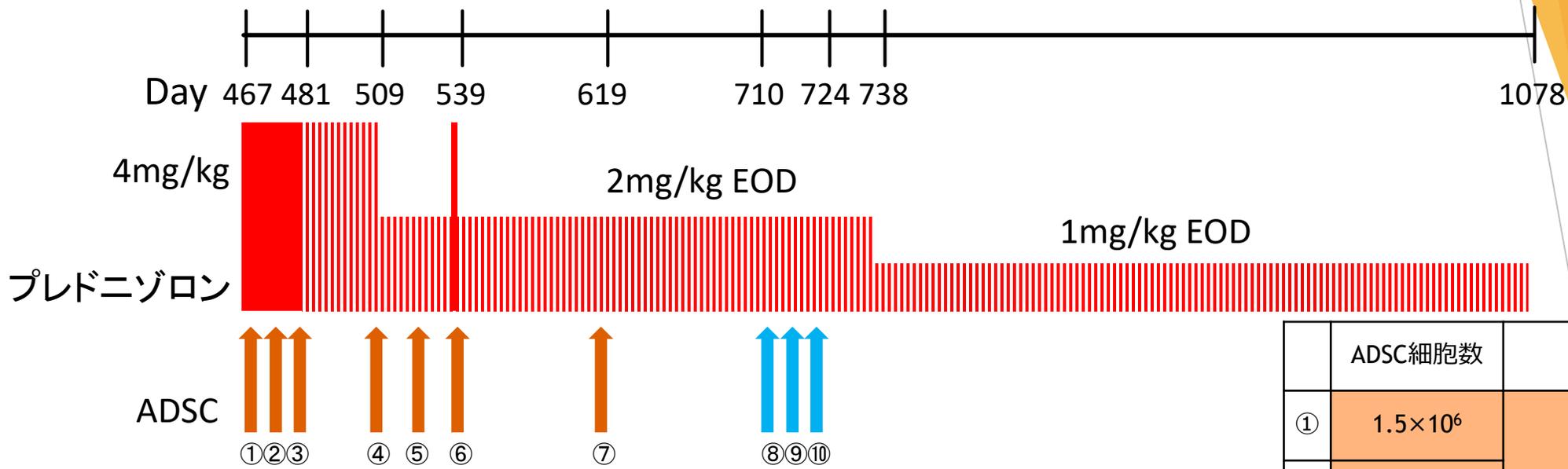


第411病日



第467病日

# ①アレルギー性皮膚炎(猫)



第481病日



第509病日



第544病日



第724病日

	ADSC細胞数		投与間隔
①	$1.5 \times 10^6$	他家	
②	$1.7 \times 10^6$		1週
③	$1.7 \times 10^6$		1週
④	$2.5 \times 10^6$		4週
⑤	$2.5 \times 10^6$		2週
⑥	$2.5 \times 10^6$		2週
⑦	$2.8 \times 10^6$		11週
⑧	$4.0 \times 10^6$	自家	13週
⑨	$4.0 \times 10^6$		1週
⑩	$4.0 \times 10^6$		1週

## ①アレルギー性皮膚炎(猫)

### 獣医師コメント

- 免疫抑制剤が著効せず、一時期はプレドニゾロン4mg/kg SIDでなんとかコントロールできる状態であった
- 他家ADSC投与後、効果は比較的すぐ現れ皮膚の状態に改善がみられた
- 投与による明らかな有害事象はみられなかった
- 他家ADSCでは効果が持続しない印象があり、自家ADSCの投与に切り替えたところ明らかな治療効果の延長がみられた
- 現在はプレドニゾロン1mg/kg EODの投与で、新たな病変が現れるものの全身に広がることはなく、良化と悪化を繰り返しながらではあるがオーナーも状態に満足している

## ②皮膚の褥瘡（犬）

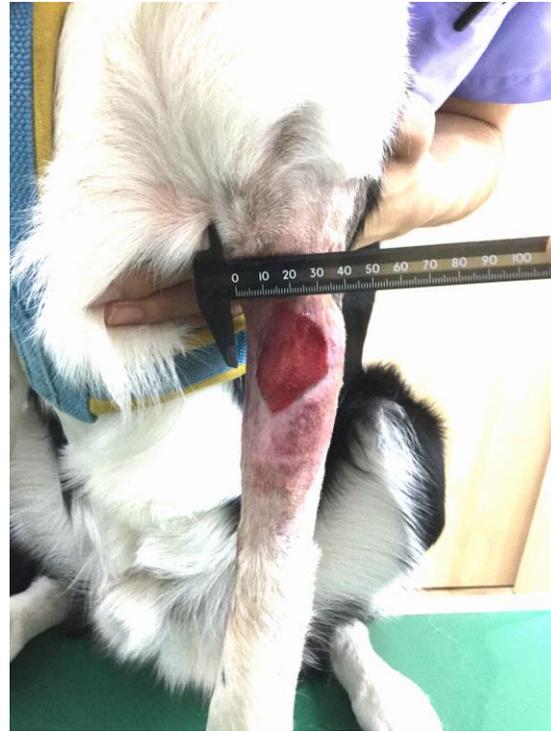
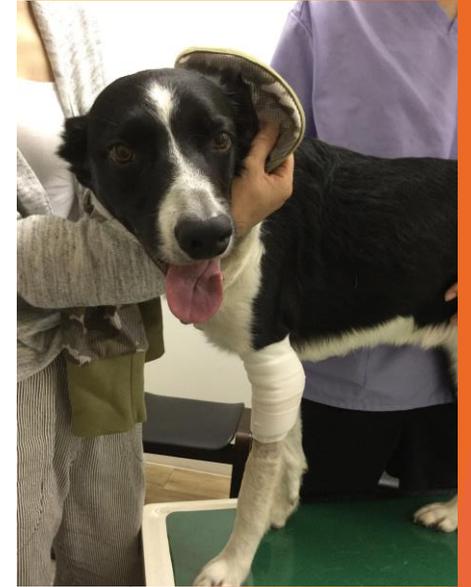
症例:ボーダーコリー、5歳2ヶ月 C

診断:皮膚の褥瘡(右写真)、縫合系反応性皮膚炎

合併症:変形性脊椎症、馬尾症候群

治療:他医院にて既存療法にて半年以上改善なし

PRPおよび自家ADSC療法(計3回)



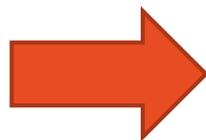
## ②皮膚の褥瘡（犬）

PRP療法



PRP療法

- ・壊死組織をデブライド処置
  - ・作製したPRPを患部に塗布
  - ・右図のように固定
- ⇒褥瘡は改善されず



- ・手術方法をwalking sutureに変更
- ・ADSC療法併用

## ②皮膚の褥瘡（犬）



### 再手術

- ・縫合は Walking Sutureにて実施。1度の処置ではすべて寄らなかったため1カ月間隔で計2回実施。
- ・自家ADSCを計3回⇒1回目、SCおよびIV投与  
2、3回目 IV投与



## ②皮膚の褥瘡（犬）

再手術から2ヶ月後



獣医師コメント

・被毛もあり、患部は良好に回復